

## 研究に関する公開情報

公立陶生病院では、以下にご説明する研究を行うことを計画しています。この研究では通常の診療で得られた過去の情報を使用します。本研究に診療情報を使用されることを望まない方は、下のお問い合わせ先に申し出ただけでしたら、その方の診療情報を収集することはありません。お申し出になられても、診療を受ける上で不利益を被ることはございませんのでご安心ください。また、この研究は当院のみで実施されます。

[研究課題名] 感染性心内膜炎における感染症内科の介入に関する影響の検討

[当院研究責任者] 部署名 感染症内科 氏名 武藤 義和

[研究の目的] 感染性心内膜炎を罹患された方の治療の有効性や臨床経過に加え、感染症内科が介入することが有意義な予後に関連があったか等について評価することを目的としております。

### ■研究の対象となる方

2012年4月から2022年3月に公立陶生病院に受診もしくは入院した患者のうち、感染性心内膜炎の診断を得た患者さんに関して検討いたします。

### ■ご協力頂く内容

上記期間に診療上得られた検査データと、診療録に記録された診療情報(年齢、性別、身体所見、症状、採血検査、画像検査、生理検査結果、治療経過など)を研究に使用させていただきます。それらの使用に際しては、研究代表者がこれを管理し、政府が定めた倫理指針に則って個人情報厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されることはございません。診療以外での採血など、患者さんに新たにご負担頂くことはございません。

### ■研究の背景・目的

2017年末より当院は感染症内科の新設があり、血液培養検査の2セットの徹底化、黄色ブドウ球菌菌血症の治療バンドルの採用などにより積極的な治療介入をしております。もともとMRSA菌血症、MSSA菌血症、真菌血症などは感染症内科の介入が入ることにより入院中死亡も低下し、長期予後に関しても改善が報告されており、実際に当院もその予後の改善が認められております。その関連疾患としての感染性心内膜炎は致命率の高い疾患であり、早期の治療介入と長期的な治療が必要となるため、感染症内科の介入の意義が高いと考えられておりますので、2017以前の介入がなかった時期と、介入が始まってからの時期においてその診断やマネジメントの違いについての臨床的比較を行う事を目的としております。

### ■個人情報に関して

あなたのご希望により、この研究に参加してくださった方々の個人情報の保護や、この研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の計画書や研究の方法に関する資料をご覧いただくことや文書でお渡しすることができます。また、本研究で収集させて頂いたご自身の情報を当院の規定に則った形でご覧頂くことも出来ます。ご希望される方は、どうぞ記載のお問合せ先にお申し出ください。

■お問い合わせ先 公立陶生病院 電話番号 0561-82-5101

研究代表者 感染症内科 武藤 義和